

平成9年4月30日現在

尾萼台 OSUBEDAI

世帯数 56戸
人口 211人

私たちの町尾萼台自治区は、昭和54年(1979)3月に発足して、およそ20年の歳月をへようとしています。ここで生まれ育った子どもたちも成人式を迎える頃になりました。誕生してから一つの年輪を刻もうとしているのが現在の尾萼台です。

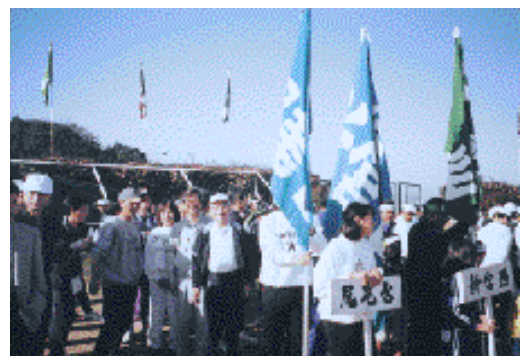
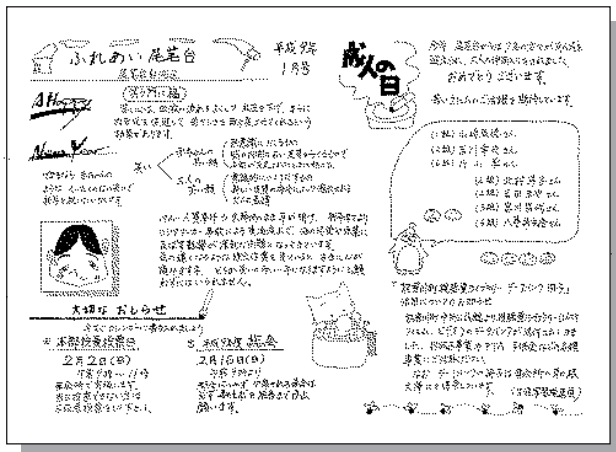
住民相互の親睦と明るい町づくりをはかり、生活環境の向上に努めることを目的にして自治区が発足した後、昭和57年3月10日に広報誌『ふれあい尾萼台』創刊号が発行されました。それ以来今日に至るまで脈々と、この広報誌は地域住民のふれあいの原動力となり、町づくりの歴史を物語ってきました。集会所の「草の根文庫」には、広報誌を綴った閲覧版があり、その厚みは2センチにもなりました。『ふれあい尾萼台』が語る歩みには、いろいろな行事が紹介されています。

発足当時は30～40代前後の年齢層が多かったので、体育の推進にも力が入っていたようです。バレーボールやソフトボールなど、白熱した試合の様様や輝かしい成績が紹介しており、積極的な活動の様子がうかが

えます。子供会ではフットベースボールが盛んでした。また、8月23日頃に実施されていた「地蔵盆」が「夏祭り」に名称変更され、時期も変わったことが記されています。いままこの夏祭りには、子供会のかわいい子供みこしが尾萼台を練り歩き、祭りの雰囲気盛り上げています。

住民の憩いの場といえば、五位田川に隣接する小さな児童公園です。安全に楽しめるよう、清掃や施設面の改善に努力されてきたことも『ふれあい尾萼台』に記載されています。

もう一つは集会所です。自治区が発足して6年目にして、ようやく念願の「尾萼台集会所」が完成したのです。ここまでたどり着くのに、住民の努力はもとより、尾萼台を温かく見守ってくださる地域のたくさんの方々のご協力、ご尽力の様子が伝わってきます。いまでは、集会所を中心に、青少年の育成と明るくふれあいの輪が広がる町づくりをめざして躍進し続けています。



今年もがんばるぞ！ 尾萼台チーム



楽しみだな、ホクホクおいしいサツマイモ

平成9年4月30日現在

大徳寺 DAITOKUJI

世帯数 73戸
人口 254人

私たちの行政区は、まだ9年目で、昔のことがわかりません。毎年、行われている区内の行事を報告します。

春、夏には、区内の一斉清掃を行っています。

5月には、区民（一組、二組、三組）対抗のソフトボール大会。

8月の地蔵盆には、子供会の皆さんが地蔵さんの前に集まります。午前中は各自が絵を書いてテントの回りに張りつけ、お参りに来る人に見てもらいます。昼食は、お母さんたちが作ってくれたカレーライスを食べ、午後は、いろいろなゲームをして楽しく遊びます。

夜6時より和尚さんおしょうがお参りに来られるので、子どもたちもお参りして、8時より幼児から小学生までが隣村（安楽寺、能登川）の各地蔵さん6カ所にお参

りに行きます。また、隣村からも子どもたちが来て、お供え物のお菓子をあげたりもらったりして、子どもたちの親睦しんぼくを深めています。

このお地蔵さん（13体）は、河川改修の際、小川から上がったのを、能登川の飛永シズさんが、当時、畑でお守りをしていました。その後、宅地に造成され私たちの行政区ができ、現在、区民の皆さんでお守りをしています。

9月には、“区民フェスティバル”として公園広場で、バーベキュー大会をしています。

12月には、草の根ハウスで子供会がクリスマスパーティーを行い、夜は区民の皆さんで忘年会を行っています。

以上、どの行事も親睦を深めるための行事です。

8月の地蔵盆



お参りしているところです



真中に建っているのが地藏堂です



子どもたちが絵を書いているところです

平成9年4月30日現在

旭ヶ丘 ASAHIGAOKA

世帯数 93戸
人口 331人

旭ヶ丘は若い街です

旭ヶ丘は戸数93戸、当初より住宅地として開発されました。昭和58年(1983)分譲開始より14年目となります。みんなスポーツ好きの健康家族です。

旭ヶ丘は遺跡の上にある街です

旭ヶ丘が位置する場所は、古墳時代の集落跡である斗西遺跡の一部に当たります。開発に先だつ発掘・調査にともない集落をとり囲む川の跡とともに多数の住居跡や土器・木器が発見されました。また魚をとる梁遺構や水利調節用の堰跡なども発見されています。またここでは水辺のまつりが行われていたらしく、鏡のペンダントや儀杖の形をした木器など特殊な遺物が出土しています。

それらの遺物を見て驚くことは、現在のものにも劣らぬ手技のたしかさと知恵のひらめきです。

私たちはもっと自分たちの住む土地の歴史を知る必要があります。古代の人々がどのような国づくりを行おうとしたのか。朝な、夕な、どのような生活していたのだろうか。そんな古代に寄せる想いが、私たちの町づくりに土地の息吹となって吹きこまれることを信じます。

今年(平成9年)の秋に完成する総合文化情報センターの開館が待ちどろしいかぎりです。



草の根ハウス前にて地藏盆

草の根ハウスはわれわれの町づくりの原点です

今年で草の根ハウス建設5周年を迎えました。平成4年(1992)多くの先達の骨折りと住民の熱い意識のたかまりの結果、旭ヶ丘の草の根ハウスが建てられました。これはわれわれの町づくりの原点と言えるものです。現在、自治会・子供会の会合や行事に利用され、旭ヶ丘のコミュニティセンターの役割を担っています。念願の老人会の結成も間近いようです。



ドラゴンカヌーの戦いが終わって



斗西(斗西)遺跡の現地説明会